

荒木山通信

2023年4月
第17号
北房文化遺產
保存会

また、役員改選も行わされました。会の発足以来、熱い思いと高い識見で導いてこられた久松会長・戸村顧問が退かれました。長い間、大変お世話になりました。

令和五年度も
取り

荒木山西塚古墳の発掘
調査・西の明日香村
ガイデ養成事業

一月二八日（土）、北房文化センターで、令和五年度の北房文化遺産保存会総会が開催されました。

令和四年度の事業と決算監査報告の後、五年度の事業計画や予算・会則の一部変更等について話し合いました。

《事業計画》 (一) 荒木山西 査について

二月一七日からの調査でも発掘及び一般参加者の世話を。秋の二年次調査にも全員で取り組む。古墳の清掃(柴掻き)も。

作成したテキストを用いての研修講座の開催

(三) 会員活動用ベストの作製
(四) 広報紙「荒木山通信」の発行
(五) 文化遺産に係るクラウドファンディングの研究
『会則の一部変更』
内に。
・ 事務所を文化センター
・ 会費を大学生千円、高
校生以下五百円。

【総会以降現在までの活動】

○荒木山西塚古墳
令和四年度後期発掘調査
発掘調査準備

二月二七日(金)
三月二二日(日)



品販売の出店などもあり、会を盛り上げました。後でその様子がM I Tなどで放映されま

A large, broken eggshell lies on a textured, brownish surface. The shell is cracked in several places, with a significant portion of the right side broken off. The interior of the shell is a light, off-white color.

真庭市や市教育委員会、
大学（同志社大・駒澤大）、
専門家の先生方のご支援・
ご指導、そして本会会員や
一般参加の方の熱意、ご協
力、地権者のご理解により
令和四年度の発掘調査をつ
つがなく終えることができ
ました。心より感謝申し上

同監会同監会同監会同監会同監会
事計務
上谷仁志元元元
平城城城城城城
小林志田南條黑田秀男保之
展弘浩一
以上一八名の体制です。
(新)…新役員
北房地域における文化遺産
を次世代に継承するため、研究
五年度も保存・活用・研究
に取り組みます。
晴天にも恵まれ県内各地
から約一三〇名の参加
がありました。(県外か
らの参加者も)スタッフ
として説明や案内等、会
員の皆様には大変お世話
になりました。
現地説明会
三月四日(土)
見計らったように丸底壺
や長頸壺なども出土しま
した。また、地域の特産
説明会の数日前には、



げます。

この秋には二年次の調査も計画されています。宜しくお願い致します。

(畦田)



○ガイド用テキスト

三月一日(水)発行。
A4・五〇頁。

北房文化遺産ガイド用テキスト



北房文化遺産ガイド用テキスト

特別寄稿

土井2号墳から出土したイヌの骨

元津山市教育委員会生涯学習部長

行田裕美

土井2号墳の石室からは二基の陶棺が出土した。石室の奥側を1号陶棺、手前側を2号陶棺と命名された。

ここで取り上げるイヌの骨は1号陶棺の下から出土し

た。陶棺の下と言つても土管状の脚が沢山付いている。イヌの骨は、その脚と脚の間に須恵器等と一緒に詰め込まれたような状態で出土した。何故わざわざ陶棺の脚と脚との間に詰め込んだのであらうか。

横穴式石室は追葬のために造られた墓である。土井2号墳は出土した須恵器の年代から約一〇〇年間にわたり使用されていた。その

間に少なくとも十二人以上が埋葬されていたことも判明した。単純計算すると、約一〇年に一人が追葬され

たという事にならうか。

最初に石室内に陶棺を納めた時は、須恵器等の副葬品は陶棺の周辺の空いたスペースに置き石室を閉塞する。次に追葬の必要が生じた時は閉塞石を取り除き、陶棺を石室内に運び込むのであるが、副葬品が床面を覆つていては陶棺を置くスペースがない。そこで須恵器等の副葬品を片付けて陶棺を置くスペースを確保するのである。このため最初の副葬品を陶棺の下の脚の

間で詰め込んで、追葬陶棺のスペースを作るのである。

このように、陶棺の脚と脚の間にびつしり須恵器等を詰め込む風習は、陶棺を複数持つ古墳では普遍的にみられる現象である。従つて、陶棺の下の須恵器類が追葬時のものよりも確実に古いのである。

イヌの骨は1号陶棺下の脚と脚の間から出土しているので1号陶棺の被葬者と関係するものと考えられる。では何故イヌの骨が古墳から出土するのだろうか。

イヌの骨は頭蓋骨と下頸骨だけで胴体部や胸部の骨は見られなかつた。このことから調査を担当された京都大学の池田次郎先生は、「白骨化した頭骨だけを入れたのだろう」と推測されている。

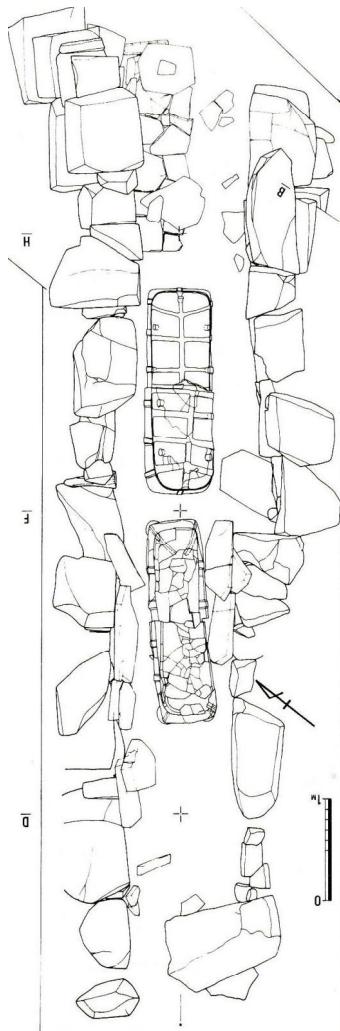
時代は遡るが、縄文時代の食生活を覗いてみよう。

縄文時代になると狩猟採集に加えて漁労活動が大きなウエイトを占める。食した後の獸骨、貝殻、魚の骨などは不要なため、一定の場所に集積される。それが貝塚と呼ばれるごみ捨て場である。従つて、貝塚の調査をすれば縄文人が何を食べていたのかがつぶさに分かることである。

各地の貝塚等の調査結果から、縄文人が口にした哺乳類はイノシシ・シカを始めサルも含めて七〇種に及ぶ。鳥類はガン・カモ類を始め三五種。水産物としては、魚類七一種、貝類三五種、エビ・カニ類八種、ウニ類三種があげられる。これらの中には、毒のある



○会員活動用
ベスト
保存会員に
無料配布。会でのイベントなどで着用します。
(三月四日の現地説明会の時にも着用しました。)



【土井2号墳平面図】

る。

各地の貝塚等の調査結果

から、縄文人が口にした哺

乳類はイノシシ・シカを始

めサルも含めて七〇種に及

ぶ。鳥類はガン・カモ類を

始め三五種。水産物として

は、魚類七一種、貝類三五

種、エビ・カニ類八種、

ウニ類三種があげられる。

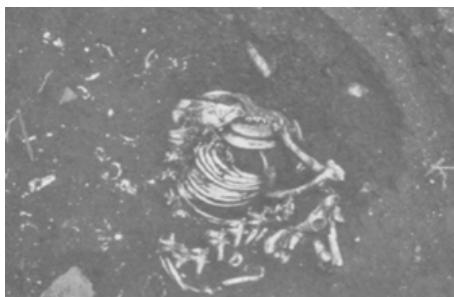
これらの中には、毒のある



【1号陶棺出土状況(土井2号墳)】

フグ、クジラ、アザラシ、オットセイ、イルカなども含まれている。また、アマモなどの海藻類一九種も確認されている。

植物食としては、クルミ、トチ、クリ、ドングリ、シイなどの堅果類が中心である。トチやドングリなどをアクリ抜きしたと考えられる貯蔵穴も見つかっている。



【イヌの埋葬（宮城県田柄貝塚）】

哺乳類の中でイヌだけは食べていないのである。イヌはイノシシやシカなどの狩猟のために獵犬として飼育された縄文時代唯一の動物だったのである。イヌの埋葬例は全国で約一二

〇例が確認されている。そして、イヌは縄文人の墓域内に埋葬されているのである。イヌは縄文人の伴侶であり、生活を共にしていた家族同様の存在であったのである。このため、死後はごみ捨て場である貝塚に捨ててゐるのではなく、宮城県田柄貝塚の例のように丁寧に埋葬されたのである。

イヌと共に存した縄文時代がそのまま古墳時代に当たるとは思わないが、1号陶棺被葬者とイヌとの関係の謎を解くための手掛かりの参考になればと思う。
(二〇二二・二二・二二脱稿)

※ 土井2号墳関係の平面図や

写真は「土井2号古墳」

(北房町教育委員会、一九七九年三月発行)より

【創作民話】

奥吉備の里

備中中津井の桃太郎物語

中嶋ひろし

飛鳥時代大和政権は統一

国家の実現にあたり、吉備の国は鬼ノ城にあって鬼と

の対立が起つた。鬼は恐れられる権力者を屈服させよとの命令を下した。

近江出身の石川王は「日

本一」の旗印を掲げ進軍、

中津井は高機山のふもと近

江川原に駐留した。古くから畿内政権と密接な関係に

ある在地の三豪族が出迎え

るのであつた。

その一人は忠誠心が強く

武勇に優れた土井の豪族で

犬が大好きである。定の豪

弓矢を得意とする勇敢な人

物である。絶大なる信頼関

係の中、平定後の国造りの

協力推進についても話し合

い、いざ出発！

愛称の犬、猿、雉は近江

軍と共に鬼ノ城に攻め上る。

持ち前の力量を存分に発揮

し、大した戦乱もなく退治

することができた。天皇は時も流れ、大宰石川王の詐報に天皇は深く哀しまれ、その功績に諸王二位を贈られた。桃太郎のお墓は、安住の地中津井に極めて立派な古墳が造築され、安らかな眠りについている。



石川王は、都から邪氣を払い、また不老長寿の薬と言われる桃の実を持ち込んだ。人々は大変に喜び、尊敬の念をもつて桃太郎さんと呼ぶのであつた。

時は流れ、大宰石川王の詐報に天皇は深く哀しまれ、その功績に諸王二位を贈られた。桃太郎のお墓は、安住の地中津井に極めて立派な古墳が造築され、安らかな眠りについている。

大いに喜ばれ、それぞれに褒美を授け、そして石川王を吉備の大宰に任命し新しい国造りを急がせた。

石川王は、都から邪氣を払い、また不老長寿の薬と

言われる桃の実を持ち込んだ。人々は大変に喜び、尊

敬の念をもつて桃太郎さんと呼ぶのであつた。

時は流れ、大宰石川王の詐報に天皇は深く哀しまれ、

その功績に諸王二位を贈られた。桃太郎のお墓は、安

住の地中津井に極めて立派な古墳が造築され、安らかな眠りについている。

悠久の里、中津井のローマンは奥深く広い。

大神宮と玉垣

大通りの中程には大神宮の額を掲げた鳥居がある。

これは、かつて伊勢神宮の分社と云われていたからである。明治維新後は山田神社と改称されている。

境内の玉垣に安政四(一八五七)年当時、阿波、九

州、大坂などの舟問屋の名前が刻字されている。これ

は成羽が川港として繁榮し

ていた史実を物語つてゐる。

「備中とと道」の紹介（その4）

備中とと道推進協議会 顧問 森山上志



【金屋小路の常夜燈と小祠】

大通りの中程には大神宮の額を掲げた鳥居がある。

これは、かつて伊勢神宮の分社と云われていたからである。明治維新後は山田神社と改称されている。

境内の玉垣に安政四(一八五七)年当時、阿波、九

州、大坂などの舟問屋の名前が刻字されている。これ

は成羽が川港として繁榮し

ていた史実を物語つてゐる。



【大曲がり】

成羽藩勘定所遺構
大通りは城下町らしく
「大曲がり」が二カ所遺されており、初めの折れ曲がりには恵比寿神社が祀られていた。次の角には、長屋門を持つ成羽藩勘定所遺構がある。勘定所は、年貢米の管理、高瀬舟の運行や運上金の管理等をする重要な役所であった。



【大神宮の鳥居】



【成羽藩勘定所遺構】

成羽藩勘定所遺構
大通りは城下町らしく
「大曲がり」が二カ所遺されており、初めの折れ曲がりには恵比寿神社が祀られていた。次の角には、長屋門を持つ成羽藩勘定所遺構がある。勘定所は、年貢米の管理、高瀬舟の運行や運上金の管理等をする重要な役所であった。

成羽の領主山崎豊治公が持つ成羽藩勘定所遺構
ある。勘定所は、年貢米の管理、高瀬舟の運行や運上金の管理等をする重要な役所であった。



【明治期の引き札】

万治元（一六五八）年に入部され、商人の町「新町」を作り、商売繁盛を願い恵比寿様を勧請した。高瀬舟による物資の集散を薦めた町作りが明治維新後も継続してきた。

丁には「神樂による町おこし」を願い、陶器製の神樂のオブジェが町筋に展示されている。そのオブジェを楽しみながら西に進むと、本丁の西端近くに鮮魚店がある。そこには古い広告（引き札）と明治期のお得意様に宛てた請求書が展示されている。お得意様の名前から宇治方面にも取引先があったことが伺える。五代目当主の話によると、現在も宇治や吹屋に鮮魚を販売に行くそうである。

成羽→吹屋のとと道もこの往来を活用していた。平成時代になり広域農道の設置により吹屋往来は分断され、とと道が判別できなき箇所へは私どもが案内板を立てている。

「吹屋往来」は、広島県東城の鉄や薪炭、吹屋の銅や弁柄等を成羽へ運び、高瀬舟で成羽へ運ばれた肥料（魚粉）や生活必需品、吹屋銅山で働く人夫の食材等を吹屋や東城へ輸送する路線であった。一方、江戸期には新見藩主が参勤交代の帰路に成羽からこの往来を利用することがあった。

成羽美術館（御殿屋敷跡）の石垣（野面積み）を見た後は、魚仲仕が通っていた総門橋を渡る。橋の北詰めの左岸を少し川上に進むと、高瀬舟が発着していたこと分かる。

平坦な部分を道なりに進むと広域農道と合流する。右手の山道に入り、窓坂峠



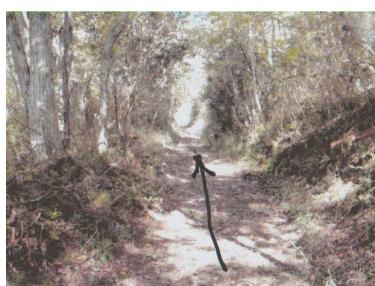
【牛馬供養塔】
明治31(1898)年建立



へ向けて山道を上る。「菊屋地蔵」の案内板の脇に菊屋佐治郎と刻字された地蔵尊が祀られている。



【菊屋地蔵】・案内板



【窓坂峠】

場と番所跡の案内板がある。急坂を登り切った山頂あたりが「窓坂」と呼ばれている。後ろを振り返ると成羽の町が展望できる。前方にはぽつかりと空いた空間が窓のように見える。



【宇治への山道】

「とと道」案内表示に従い、「宇治への山道」へ入る。ここから宇治町後谷地区まで人家は無い。山道は平坦で普通車が通行できる。後ろを振り返ると成羽の町が展望できる。前方にはぽつかりと空いた空間が窓のように見える。

五〇）年頃から通行しなくなり、松枯れ病による倒木や笹類の繁茂により通行不可になっていた。地元のT氏が自ら重機を使い数年かかつてかつてのとと道を復元された。この奉仕作業により「とと道」が再び通行可能となつた。

② 窓坂峠北—宇治に至るとと道



【屋根付きの地蔵尊】

案内板に従い右に進む。次の交差点を左に進むと笹が自生する狭い山道になる。山道の右手に屋根を付けた大きな地蔵尊（建立年不明）が祀られている。その前に置かれた石仏には文化十年（一八一三）の刻字が見える。その頃、既にこの山道を通行していたことが判る。

地元の人々が「窓坂峠」と呼ぶようになったという。とと道は昭和二五（一九五〇）年頃から通行しなくなり、松枯れ病による倒木や笹類の繁茂により通行不可になっていた。地元の人々が「とと道」案内表示に従い、「宇治への山道」へ入る。ここから宇治町後谷地区まで人家は無い。山道は平坦で普通車が通行できる。後ろを振り返ると成羽の町が展望できる。前方にはぽつかりと空いた空間が窓のように見える。

地元の人々が「窓坂峠」と呼ぶようになったという。

地元の人々が「窓坂峠」と呼ぶようになったという。

理道と交差する。そこから少し進むと左手に捨てられた廃車があり、その廃車に「とと道」案内が記入されている。

古墳の山城への改造

津山おくにじまん研究会

代表 赤坂健太郎

「荒木山通信」に初めて寄稿させていただきました。赤坂と申します。よろしくお願い致します。

十一月末に初めて古墳を

訪れ、発掘調査に参加して

きました。予想以上の古墳

の大きさに驚きつつ、未知

の歴史が解明されるかも知

れないそのプロジェクトに

関わっているということです

嬉しく思っています。

さて、現在発掘中の荒木

山西塚古墳の東側には荒木

山西塚古墳が存在していま

す。この古墳は、全長四五

mの前方後方墳ということ

が明らかとなっています。

その古墳が造営されて、

が発刊した「岡山県中世城館跡総合調査報告書第2冊一備中編一」には「荒木山東塚城跡」として記載されています。

それによると、「古墳の後方部を二〇m×一五m前

後の本丸ともいべき主郭

としており、前方部を長さ

一五m、幅一〇mの曲輪と

して使用。曲輪の先端部は

古墳の墳形が撥形に開いての

名残はよく留めている。さ

らには主郭の南東側には幅

一五〇二〇mほどの曲輪を

形成。そして、それらの周

りを二〇五mを測る帶曲輪

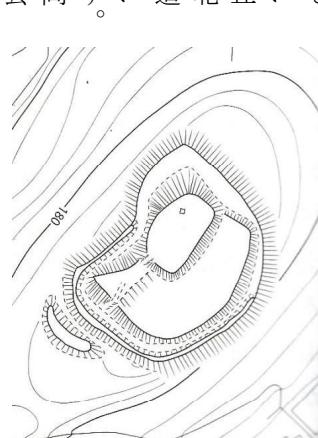
で囲んでいる。古墳の前方

部前面には、高さ一・五

mの前方後方墳といふこと

が明らかとなっています。

その古墳が造営されて、



【荒木山東塚城跡縄張り図】

県中世城館跡総合調査報告書一備中編一

と一mを測る二重の土墨、深さ一・五mの堀切によつて古墳が立地する尾根を遮断して守りを固めていたものと考えられる」ということが述べられています。こうした改造した例とうものはよくあるもので、県内では最近岡山市内で発掘調査された国内第四位の規模をもつ前方後円墳、造山古墳があります。後円部を削り出し、周囲に土墨を構築しています。建物跡の一部と見られる柱穴が発見されています。

美作地区周辺では、津市二宮の美和山1号墳、上横野の小丸山古墳、戸島の局笠山古墳、真庭市美甘の陣山城跡、鏡野町貞永寺の春日城跡などで改造例が挙げられます。特に美和山1号墳は美作地区最大級、全長八〇mの前方後円墳で、後円部を大きく削り出し、その南端に土墨を構築、墳丘の両端にも二・五mほどの大規模な土墨を築いているというものです。

こうした古墳を城として改造するということは岡山県内周辺、全国的にもよく見られるものです。城を築

く時にそこにたまたまある大きな古墳にそのまま段差をつけたり整形加工をしています。当時は古墳としての認識はなく、小高い丘のようなものと考えていたと思われ、これを城として活用するには都合がよく、次第に城改造への動きが全国的に広がったようです。見張り台、狼煙台にするなどして、二次的に利用しています。たものと思われます。

、 二次的に利用してい
るのと思われます。

『俳句・短歌コ一ナ一』

○ 泥水で遺物を洗ふ
○ 古墳掘る忽ちにして
○ 冬の土
○ 天野光暉
○ 雲海のロマンあふるる
○ 荒木山
○ 小田裕章
○ こつこつと発掘の背や
○ 返り花
○ 宮田敏子
○ 土削り運ぶ篩へ黙々と
○ やがて戻さん
○ 古墳の眠り
○ 眞田恵子

【高梁城南高校生の素麺鳴尊】

それが歴史的事実であれば、現存する宝剣は何なの
か。私は神話から古墳時代
まで律令国家が成立するまで
を述べた古事記・日本書紀、
古代から鎌倉まで記した愚管抄。
南北朝の神皇正統記など
で宝剣の行方を追つた。
その記録をご覧いただこう。
素戔鳴尊は出雲の国で

昨秋の北房文化交流祭、ドームの舞台で備中神楽が高梁城南高校にて上演された。素戔鳴尊の八岐の大蛇退治の勇壮な剣舞に拍手が鳴り止まなかつた。あの大蛇の尾からとり出した天叢雲剣は、その後二千年以上たつが、どうなつてゐるのだろうか？ 皇位の標識として歴代の天皇が受け継いできたといふ八咫鏡・天叢雲剣・八尺瓊曲玉の二種の神器は、現天皇の践祚の令和元年五月一日、剣璽承継の儀でも登

『先帝身投』の段。「二
位殿曲玉をわきにはさみ、
宝剣を腰にさし主上をいだ
きたてまつりて……浪の
たにも都のさぶらふぞ、し
なぐさめたてまつりて、エ
尋の底へぞ入り給ふ。」
（三）二、由玉と申籠は

場した。
しかし、私は考えた。平
安時代の末、瀬戸内海の壇
ノ浦で源平の最後の決戦が
あつた。確かあの時、剣は
七歳の幼帝安徳天皇と共に
海底深く沈み遂に竜神の宝
り刀となつたと伝えられる
のだが。念のため平家物
語を開いた。

(一) 岐大蛇を退治し、その尾から靈劍をとり出し、姉の天照大神に神みに獻上した。その後、瓊々杵尊の天孫降臨に際し三種神器として下賜された。

(二) 古墳時代が始まる三世紀、第十代崇神天皇の代のこと。神器の鏡や劍との同床共殿（同居の縫邑に小さな宮をつくつて祭った。その代りに護身用の劍と鏡を鑄造させて宮中に奉安した。

(三) 次の垂仁天皇は、神の宣告を受けて、伊勢国五十鈴川の上流に神宮を建て斎宮の制度をつくつて天照伝来の劍を祀つた。

(四) 次の十一代景行天皇子の日本武尊に九州に次いで東国やまとの征討を命じた。この時、吉備津彦が側近として従軍した。尊は東征に際し、叔母が斎主であつた伊勢神宮に別れを告げるため立ちより、餞に天叢雲劍と火打石の入つた小袋を預いた。敵の火攻めに合つた時、その鎧で周囲の草を難いで火を放ち勝利する。

伝承される草薙剣

戸村 彰孝





【日本武尊の銅像】

「地図と地形で読む古事記」より

(5) 帰途、伊吹山の神に崇められた。以後、草薙剣という。この剣は神靈の宿ることを願す事件が第三十八代の天智・次の天武天皇の代におこる。天智七年道行(新羅出身と伝える)草薙剣を盗みて新羅に逃げ向く。而して中路に風雨とあひて、まどいて帰る。この盜難事件の再発をおそれた天皇は、剣の所管を熱田神宮から近江の宮中に移した。

(6) 壬申の乱で大友皇子を倒して政権を握った天武天皇も不死身ではなかつた。病床に伏した朱鳥元(六八六年六月十日、病の回復を占うに、「草薙

剣」といふ。この天照大神の下賜された三種の神器の本体は、鏡は伊勢神宮、劍は熱田神宮、曲玉は宮中と三個所に奉祀保管され今日に至つたのである。壇ノ浦に沈んだ剣は崇神天皇代に造られたレプリカであり、今日践祚で用いられた剣は鎌倉時代以後更に再製されたものと推察され「御世器」とよばれるという。

(1) こうして私の謎は解けた。

II 余談 II

天皇の歴史から言えば異常な南北朝時代、後醍醐天皇即位の時も三種神器は用いられた。南朝が奉持していた三種神器は将軍足利義満の時、北朝に奉還され和解統一の証とされた。(神皇正統記)

(2) 熱田神宮の祭神「草薙剣」は明治天皇によつて封印され、大正天皇も昭和天皇も開封されず、その刀影を拝見した者は一人も居ない。

(1) 令和天皇践祚の剣は複製で御世器という。

(2) (熱田神宮の話) 帯びた剣は、刀の剣の長さによつて、十握劍九握劍などと表記され、素戔鳴尊が使つた剣は十握劍

(3) (西の明日香村コンソーシアムと北房文化遺産の活用) 平城元(発掘担当)

荒木山西塚古墳第一次発掘作業が、事故や怪我などなく終了できることに安堵しています。今回の後円部において学べたこと、興味深かつたことなどについては、機会があればまた書いてみたいと思いますが、ここでは改めて「西の明日香村コンソーシアム」の目的等について少し述べたいと思います。

今回の発掘調査において最も特徴的なことは、この体制にあります。そもそも、この体制が組まれた目的は、地域・大学・行政そして考古学等の専門家からなるサークルが共同事業体とし

て一体となり、北房地域の文化遺産の調査・研究およびその周辺の発掘作業によって学べたこと、興味深かつたことなどについては、機会があればまた書いてみたいと思いますが、ここでは改めて「西の明日香村コンソーシアム」の目的等について少し述べたいと思います。

近年、文化遺産を博物館等で公開するといつただけの活用ではなく、地域振興等へ結びつける活用が望まれています。北房の文化遺産等を活かした地域づくり、「西の明日香村づくり」は、まさにそれになります。

したがつて、今回の発掘調査自体も大変大きな事業ですが、一方で目標達成のためのワンステップであるともいえます。西塚古墳の

発掘調査を適切に、かつ効果的に推進することによって得られた成果を、今後、地域住民も参画しながら、どのように活用し、例えば全国の古代史ファンをはじめとした多くの人びとに、「西の明日香村」北房を知つてもらい、そして訪れてもらえるようにしていくの

かといったビジョン策定・推進が、より大きな目標であることを強調しておきたいと思います。

もちろん、今回のように発掘作業の段階から、地元の小・中学生、住民をはじめ県内の人びとを巻き込んで、古墳の学習と発掘作業をおこないながら、参加者同士の交流を図る活動そのものが、一つの効果的な活用でしよう。

ところで、当保存会では、



【古墳の埋め戻し作業】

発掘調査開始に先立ち、真庭市北房振興局とも連携しながら、「西の明日香村づくり」のスタートとして、「西の明日香村・道しるべ整備事業」をおこなっています。本事業については何度か説明されていますので、詳細は述べませんが、振興局と保存会で計二四基の道案内看板、そして「西の明日香村」のメイン散策道（山の辺の道）の入口案内看板（山香村）のメイン散策道（山の辺の道）の入口案内看板三基の設置を完了しました。



【作業後の集合写真】

こうして、発掘調査と並行しながら「西の明日香村」北房への受け入れ態勢を整える事業を進めてきました。今後は、北房の情報を全国に向けて発信する事業も必要となります。

「西の明日香村コンソーシアム」が目標とする文化遺産を活かした地域づくりは、単に文化遺産だけではなく、それらを育む環境や景観、そして人的な交流・ネットワークも含めた総合的な保存・活用体制の構築が望ましいように思われます。

今年の後半から再会され

る第二次発掘調査でも、「西の明日香村コンソーシアム」

体质により、多くの人たち

の交流の場になり、北房の

史跡を一人でも多くの人に

知つてもらえる場になるこ

とを期待し、北房をどんな

「西の明日香村」にしたい

のか考えていきましょう。

そして昨年からは、「西の明日香村・ガイド養成事業」を開始し、史跡等を巡る人びとを案内し、北房の文化遺産の魅力を伝えるガイドを養成していく計画です。そのガイド養成のための講習テキストを、真庭市教育委員会の補助金制度を活用し、完成したところです。この事業は、北房の文化遺産を活用できる多様な活動に繋がる可能性があり

ます。

荒木山西塚古墳発掘調査

一般参加者から

○一般参加者には、小・中・高生の参加もあり、大人に交じって熱心に発掘作業に取り組んでいました。その中

二人から感想等を寄せてもらいました。

荒木山西塚古墳発掘に参加させてもらつて

岡山市

坂東郁仁（小6）

僕は九歳から古墳にはま

り、これまで県内外の古墳

を延べ一五〇〇基以上巡つ

ています。発掘調査の現地

きましたが、古墳を発掘し

たのは今回が初めてでした。

昨年二月、北房での「西

の明日香村歴史講演会

木山とその時代」に参加し

ました。ふるいにかける作

がす作業をすることができ

ました。ふるいにかける作

墳を削る作業と、削った土

をふるいにかけ出土器をさ

がす作業をすることができ

ました。ふるいにかける作

業は、出土器が土とよく似

ていたため一緒に参加した

方と悩みながら出土器っぽ

いものを分けていきました。ふるいにかける作業は、出土器が土とよく似たのは今回が初めてでした。

昨年二月、北房での「西

の明日香村歴史講演会

木山とその時代」に参加し

ました。ふるいにかける作

業は、出土器が土とよく似

ていたため一緒に参加した

方と悩みながら出土器っぽ



荒木山古墳には、まだま

だ多くの謎と宝が眠つてい

る」とワクワクします。それらが紐

解かれていくことを想像す

ると思ひます。それらが紐

解かれていくことを想像す

る」とワクワクします。

これからも西の明日香村

・北房の魅力ある文化財を

全国の人々に広く知つても

いいのを分けていきました。ふるいにかける作業は、出土器が土とよく似たのは今回が初めてでした。

昨年二月、北房での「西

の明日香村歴史講演会

木山とその時代」に参加し

ました。ふるいにかける作

業は、出土器が土とよく似

ていたため一緒に参加した

方と悩みながら出土器っぽ

いものを分けていきました。ふるいにかける作業は、出土器が土とよく似たのは今回が初めてでした。

昨年二月、北房での「西

の明日香村歴史講演会

木山とその時代」に参加し

ました。ふるいにかける作

業は、出土器が土とよく似

ていたため一緒に参加した

方と悩みながら出土器っぽ

発掘調査に参加して

真庭市

森田陽介（中3）

僕は、十月にあつたコス

モス祭りで荒木山古墳の發

※ 次号一八号は、八月末発行です。皆様からの投稿をお待ちしています。